

10月8日米山月間に因んで・米山記念奨学生委員会・委員長神谷晃委員長他

今月に入り1日には川崎美術館(カサキ・アート・ミュージアム)のオープン第26回ウヰビ・エンターレ開催され、まさに芸術の秋本番の季節がきました。ウヰビ・エンターレで、大賞をとったのは「宇部の木」という作品でした。作者は竹腰幸平さん若干22歳、岐阜県出身の若者でした。京都精華大学の大学院の学生ということで少し驚きました。この京都精華大学にはマンガ学部がある大学として有名です。見られた方もおられますが、ときわ公園にあった樹齢80年の廃木を利用して制作されたそうです。私には評論はできませんが、ぜひこの機会に芸術の秋を感じに川崎美術館・ときわ公園に行かれたらと思います。今月の特別月間は経済と地域社会の発展月間・米山月間。米山月間は日本ローター独自のものになります。もう1つはローターの友月間が9月にあります。ローター米山記念奨学金事業について、なぜ外国人留学生支援なのか?日本のローターの創始者・故・米山梅吉翁の偉業を記念し後世に残るような有益な事業を立ち上げたい。1952年(昭和27年)東京ロータークラブが海外から優秀な学生を日本に招き勉学を支援する奨学事業「米山基金」の構想でした。そこには二度と戦争の悲劇を繰り返さないために国際親善と世界平和に寄与したいという当時のローターたちの強い願があったのです。ほかの奨学金との違いは?世話人クラブ・カウンセラー制度、顔の見える交流を大切にしています。奨学生一人ひとりに地域のロータークラブが「世話クラブ」となりローターとの交流の起点となります。さらに、世話クラブ会員の中から「カウンセラー」が選ばれて宇部クラブでは神谷先生にお願いしています。奨学生の日常の相談役となります。米山奨学生はクラブの例会や地域の奉仕活動、先月は彫刻清掃に闇さん。より深く日本を知りローターが求める平和の心を学びます。事業規模の大きさ国際奨学事業としては民間最大です。今年の年間奨学生採用数は約700人事業費は12億3千4百万円と外国人留学生を対象とした民間の奨学金では国内最大規模です。これまでに支援した奨学生数は累計で約18,104人(2014年7月現在)。その出身国は、世界123の国と地域に及びます。米山記念奨学事業は皆さんから毎年いただく寄付で支えられています。2013-14年度の寄付金収入は13億3,746万円と過去5年間で最高額となりました。事務費や人件費などの管理費支出は資産の利子収入でまかっています。寄付について。クラブから定期的に送金される「普通寄付金」と個人・法人・クラブから任意で寄付される「特別寄付金」があります。米山奨学事業は皆さんの寄付だけで成り立っています。「普通寄付金」日本の全ローターからの定期寄付で各クラブで決定した金額×会員数分の寄付。「特別寄付」個人・法人・クラブからの普通寄付金以外の任意寄付。金額に決まりはなくローター以外の方からの寄付も受けします。寄付に対する表彰制度。個人寄付への表彰、寄付の額によって、準米山功労者、米山功労者、米山功労者マルチプル、米山功労者メジャーパートナーなどがあります。法人寄付への表彰、準米山功労者法人、米山功労者法人、特別米山功労者法人などがあります。それと、クラブ表彰もあります税制上の優遇措置もあります。ローター米山記念奨学金事業についてお話ししました。